



桐

K

I

R

I

関口敏郎理事長 ご逝去



学校法人目黒学院 関口敏郎理事長は、かねて療養中のところ肺炎のため4月17日午前9時10分永眠されました。享年84歳でした。

通夜並びに密葬は関口家の葬儀として、4月18日（通夜）、4月19日（告別式）に目黒区下目黒の「大聖院」にてしめやかに執り行われました。葬儀には、多数の学校関係者、私学関係者、ご友人、ご親族、同窓生も参列され、生前の関口先生のご遺徳を偲び深く哀悼の意を表されました。

追って、学校法人目黒学院により「お別れの会」が学校葬として右記の通り執り行われます。

多数の同窓生が参列して、関口理事長に最後のお別れをされることを願ってやみません。

「お別れの会」のお知らせ

日時 6月9日(土) 午後2時から
場所 目黒学院中学・高等学校
(目黒区中目黒1-1-50)
東急東横線・日比谷線 中目黒駅下車 徒歩4分
JR山手線 恵比寿駅下車 徒歩12分

※ まことに勝手ながら御供花御供物等の儀は固くご辞退申しあげます。

※ 当日は駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮ください。

平成13年 5月21日

学校法人 目黒学院
葬儀委員長 酒井 淳
喪主 関口 隆司

平成12年度会務報告



同窓会会長
安 達 富 夫
(昭和43年 3月卒)

本誌の編集を開始して間もなく、冒頭に掲載のとおり関口敏郎理事長ご逝去の、大変悲しい知らせが飛び込んでまいりました。

昭和20年7月19日に初代関口安五郎校長の急逝に伴い、弱冠28歳で目黒工業学校第二代の校長兼理事長に就任して以来、半世紀を越える長きにわたって、現在の学校法人目黒学院の発展にご尽力されました。私たち同窓生にとっては、故関口理事長は、まさに象徴的存在でありました。今では開催が3年に1回となりました同窓会の総会・懇親会に、毎回欠かさずご臨席をいただき、多くの同窓生が関口先生にお会いするのを楽しみに集ってまいりました。誰とでも親しく接せられるその優しいお人柄とユーモアを交えた関口先生独特のその語り口に、二度と接することが出来ないのかと思うと、大変残念でなりません。奇しくも、本年は去る3月の卒業式を持って、工業学校としてスタートした伝統ある我が母校の機械科が、その使命を終え60年の歴史に幕を下ろしました。

関口先生のご逝去に重ねて想いを馳せると、我が母校におかれても一つの時代が終わったのかと、感慨にひたる想いがあります。先生の生前のご活躍に敬意を表して、ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈りするものであります。

なお、1頁に掲載のとおり、学校法人目黒学院により故関口理事長の「お別れの会」が学校葬として、6月9日(土)午後2時から執り行われます。多くの同窓生がご参列され、最後のお別れをされることを、紙上から呼びかけさせていただきます。

さて、本年は、定期総会が開催されませんので、本誌を通してこの1年間の経過報告等をさせていただきます。

まず、母校の行事につきましては、例年同様、卒業式、梧林祭等に同窓会から代表が出席して、卒業生、在校生に対する激励を行ってまいりました。

次に、本会の会員数について申し上げますと、去る3月2日の卒業証書授与式を以て、新たに普通科308名、機械科最後の卒業生86名の合計394名の新会員を迎え、会員総数では27,909名を数えるにいたりしました。このうち、本年の親子2代に亘る卒業生は、5組10名でありました。(5頁記載)

また、同窓会賛助会費の納入については、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成12年度は8頁にご芳名記載のとおり142名の方々から納入をいただきました。ここに、謹んでお礼を申し上げます。なお、本年も、本誌の発送とともに、卒業後22年を経過した会員には、賛助会費(同窓生年会費)の払込通知票を同封させていただきましたので、よろしくお願い申し上げます。

ところで、昨年発行の本誌でご案内申しあげましたインターネット上に本会のホームページを開設する件につきましては、学校側のご理解、ご協力を得まして「学校法人 目黒学院」のホームページに、同窓会のページを設けさせていただくことになりました。具体的な利用は、「学校法人 目黒学院」のトップページ(<http://www.meguro.ac.jp/>)のメニューから「同窓会のページ」をクリックしていただくことになります。今後、同窓会としてのタイムリーな情報提供と会員からの住所変更等のご連絡が、このホームページからも行えるようになりますので、是非、ご活用いただければと思っております。

なお、閲覧開始は、本年6月からを予定しております。

最後に、会員諸兄の益々のご健康とご繁栄を祈念申しあげて、会務報告とご挨拶といたします。

自由ヶ丘 南国飯店 上海風味 中国料理

代表取締役 諸 根 雄 (昭和33年卒)

◎大小個室宴会場
8名～100名様

◎P有

◎水曜定休日

◎ご予算等お気軽に
ご相談下さい／

TEL. 03-3722-3211

FAX. 03-3722-3034

「ぐるなびHP」<http://gnavi.joy.ne.jp/>

—— 自由ヶ丘駅 下車4分 ——

東京都世田谷区奥沢5-40-12

鳥井電器株式会社

■営業品目■

一般配線器具、照明器具、スイッチ
OAタップ類等製造販売

代表取締役 **鳥井次郎** (30年3月卒業)

本社／東京都品川区小山3丁目11番8号
工場／山梨工場・上野原工場・タイ工場

TEL 3783-5451(代)

学 校 の 動 向



学校長

須 藤 亘 啓

平成13年4月17日、敬愛する関口敏郎理事長が逝去されました。昭和18年以来、東京機械工科学校、目黒工業学校、目黒高等学校・併設中学校、目黒学院中学校、目黒学院高等学校で、初期には英語を担当され、校長・理事長として、戦中戦後の混乱の時代から今日まで「健全な青少年の育成」のため、教育内容の充実と教育環境の整備に尽力されました。

私は、理事長を想うとき、目黒高等学校30年史の序文を読みます。そして、読むたびに、胸に熱いものを感じ、同時に、元気づけられます。序文は、こう締めくくられています。

『私は校舎の面目の一新とか、色々の設備の充実とかいった説明し易い材料を以って、目黒高校30年の歩みを示す物的証拠であるとは思っていないし、青年育成という本来の任務が目下の処「曲りなり」という修飾語をとりはずす時期に達していないからといって、過去30年が、無駄骨折りのからまわりであったとも考えていない。ただ、正直な処、色々な悩みや、怒りや、焦りや、絶望感が、時々、眠りそこねた夜半などに私を襲った時、そんな時に、「苦難はつきものです。苦難と感じたのは私が未熟だったからです」と二度三度と頭の中で繰り返す。そして、「頑愚まことに比なし」と地下の良寛に聞こえぬように、私は小さくつぶやく』

機械科が60年の幕を閉じました。

20世紀は、科学技術の世紀とも言われました。1901年、太平洋横断無線通信の成功から100年、片手操作の携帯電話になりました。技術の進歩は、残念ながら質・量ともに高校3カ年で基本となる知識・技能を身につけることが難しい時代になりました。これからは、高等学校では基礎的なことを学習し、将来の進路に応じ高等教育期間で理論を究め、あるいは、専門学校で実務的なことを体得する時代だと思います。

機械科は、発展的に使命を終えたと考えています。

学校の動向について概略をご報告いたします。

I 学校行事

入学式・体育祭・修学旅行・海外研修・梧林祭・卒業式などが予定通り行われました。

ウインタースポーツは昨年同様、高入生（3年制）は北海道のニセコスキー場で、避難生活を余儀なくされている都立三宅高等学校の生徒19名と交流してのスキー教室を実施しました。内進生（中高一貫6年制）は、蔵王でスキー教室を行いました。

海外研修は、特進コースの2年生を中心に、夏休み中の三週間、必修の語学研修として、メルボルン大学の英語研修プログラムに参加しました。ニュージーランド生活体験の旅も実施されました。一貫コースの1年生は、12月、7日間のマレーシア

研修ツアーを実施、キャメロンハイランドの2000メートル級の熱帯雨林の体験トレッキング、ホームステイの体験、日本企業を見学しました。中学校では、3年生が10月にシアトル近郊にホームステイし、大学訪問・ボーイングの組立工場見学などの研修をしました。

新入生オリエンテーションは、中学校では従来通り入学式前に大原学園富士宮研修センターで2泊3日、高入生は今年から入学式後に菅平プリンスホテルで3泊4日で実施しました。

学級編成は、高入生は特進1学級・文理4学級・体育1学級と内進生の2学級、全4コース8学級、中学校は3学級です。

II 進路状況（平成13年4月7日現在）

① 進 学：一橋・東京農工・大阪府立・横浜市立・高崎経済青山学院・桜美林・神奈川・関東学院・北里・杏林・慶應義塾國學院・駒沢・専修・高千穂商科・大東文化・中央・桐蔭横浜東海・東京経済・東京電機・東京農業・東京理科・東洋・獨協二松学舎・日本・日本体育・法政・武蔵工業・明治・明治学院立命館・北海道東海・和光大学等の89大学に延べ277名、短期大学は、日大・國學院・東海・拓殖など9大学に10名、専門学校は、54校に69名が合格しました。

② 就 職：202社から求人がありました。就職希望者14名（3.6%）全員が、日本通運(株)・ハウジングセンター(株)・日野自動車(株)・新藤美術印刷(株)などに進路を決めました。

III 教職員の動向

① 退 職（平成13年3月31日）

森屋俊彦（体育・定年）先生、下平清高（数学・定年）先生、土屋孝夫（英語）先生、江口 信（英語）先生が退職されました。助手の先生では、木原和幸（機械）先生、桜庭洋子（家庭）先生、小林健一（理科）先生が退職されました。

② 新 任（平成13年4月1日）

桃山 均（国語）先生、松木英憲（理科）先生、本間金英（英語）先生、山口正幸（英語）先生、内田祐介（理科助手）先生、福田祐規（調理実習助手）先生を迎えました。

IV クラブ活動

弓道部は、都大会で団体3位となり、関東大会に出場します。

水泳部の武藤慎君（3年）が400m個人メドレーと200mバタフライで日本選手権に出場しました。OBの橋本公山君は200m背泳で優勝、世界選手権代表として発表されました。

現在、体育系の18部・同好会、文化系の11部・同好会が熱心に、地道な努力を続けており、成果をあげつつあります。

今年の梧林祭は、11月2日(金)・3日(土)に開催されます。先輩諸兄の来校をお待ちしております。ご予約おき下さい。皆様の益々のご活躍とご健勝を願っております。

平成 12 年 度 決 算 報 告 書			
平成12年 4 月 1 日から 平成13年 3 月31日まで			
(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
同 窓 会 費	2,231,200	2,231,200	930名分
入 会 金	628,000	628,000	314名分
賛 助 会 費	750,000	784,390	142名分
雑 収 入	124,500	213,032	会報掲載広告代及び預金利息
当 期 収 入 合 計	3,733,700	3,856,622	
前 年 度 繰 越 金	1,226,208	1,226,208	
収 入 合 計	4,959,908	5,082,830	

(支出の部)			
科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
総 会 費	1,575,000	1,427,132	
通 信 費	1,400,000	1,311,270	会報発送郵便料
印 刷 費	165,000	115,442	賛助会費振込用紙
雑 費	10,000	420	
会 議 費	123,000	57,200	
役 員 会 費	108,000	50,000	出席者食事代
通 信 費	10,000	7,200	開催通知郵便料
雑 費	5,000	0	
補 助 費	540,000	460,000	
部・同好会補助	480,000	430,000	在校生部活動補助
体育文化祭補助	60,000	30,000	梧林祭の祝金
事 務 費	640,000	381,502	
人 件 費	350,000	193,896	会報発送手間代・役員手当等
事務消耗品費	130,000	117,986	会報発送用封筒代等
交 際 費	150,000	68,570	慶弔費
交 通 費	5,000	0	
雑 費	5,000	1,050	
名 簿 費	424,000	493,640	
機 関 紙	216,000	197,540	16,600部作成
卒 業 生 名 簿	208,000	296,100	平成13年3月卒業生分 600部
予 備 費	100,000	0	
当 期 支 出 合 計	3,402,000	2,819,474	
次 年 度 繰 越 金	1,557,908	2,263,356	
支 出 合 計	4,959,908	5,082,830	

〔特別積立金〕		
(単位：円)		
保 管 種 別	本年度末	前年度末
定 期 預 金	7,000,000	7,000,000

本年は、定期総会が開催されませんので本誌に平成12年度の決算報告ならびに平成13年度の予算を掲載いたします。



平成 13 年 度 予 算 書			
平成13年 4 月 1 日から 平成14年 3 月31日まで			
(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
同 窓 会 費	2,377,600	2,231,200	146,400
入 会 金	640,000	628,000	12,000
賛 助 会 費	750,000	750,000	0
雑 収 入	121,500	124,500	△ 3,000
当 期 収 入 合 計	3,889,100	3,733,700	155,400
前 年 度 繰 越 金	2,263,356	1,226,208	1,037,148
収 入 合 計	6,152,456	4,959,908	1,192,548

(支出の部)			
科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
総 会 費	1,530,000	1,575,000	△ 45,000
通 信 費	1,360,000	1,400,000	△ 40,000
印 刷 費	165,000	165,000	0
雑 費	5,000	10,000	△ 5,000
会 議 費	123,000	123,000	0
役 員 会 費	108,000	108,000	0
通 信 費	10,000	10,000	0
雑 費	5,000	5,000	0
補 助 費	540,000	540,000	0
部・同好会補助	480,000	480,000	0
体育文化祭補助	60,000	60,000	0
事 務 費	689,000	640,000	49,000
人 件 費	350,000	350,000	0
事務消耗品費	179,000	130,000	49,000
交 際 費	150,000	150,000	0
交 通 費	5,000	5,000	0
雑 費	5,000	5,000	0
名 簿 費	470,000	424,000	46,000
機 関 紙	210,000	216,000	△ 6,000
卒 業 生 名 簿	260,000	208,000	52,000
予 備 費	100,000	100,000	0
当 期 支 出 合 計	3,452,000	3,402,000	50,000
次 年 度 繰 越 金	2,700,456	1,557,908	1,142,548
支 出 合 計	6,152,456	4,959,908	1,192,548

〔会計監査報告〕

私たちは、平成12年 4 月 1 日から平成13年 3 月31日までの平成12年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成13年4月25日

会計監査 藤 田 貞 男

会計監査 市 川 康 憲

平成12年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で33万円の収入超過を予定して開始されたが、収入は予算に対して12万円の増となり、支出は極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して58万円の減少となった。

この結果、単年度では103万円の収入超過となり、次年度への繰越金は226万円となった。

1. 収入の部

同窓会費、入会金は、予算どおり収受し、賛助会費、雑収入は、予算より若干増加した。

2. 支出の部

名簿費の卒生名簿について、卒業生数が予算より多かったことにより予算を上回ったが、それ以外の支出科目全般にわたって節減を図った結果、予算より減少した。

平成13年度予算について

平成13年度収支予算は、平成13年度の事業計画と平成12年度の収支実績とを勘案して編成した。

1. 収入の部

同窓会費は990名、入会金は320名を、また賛助会費は前年同様150名を収納予定人員と積算し予算計上した。

なお、本年度は、定期総会が開催されないことに伴い、総会費および寄附金収入については、予算未計上とした。

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②平成14年3月卒業の卒業生名簿の作成、③在校生の部・同好会に対する補助等が主なものである。これ以外の経常的運営費については、次年度の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成した。

この結果、次年度への繰越金は270万円を予定し、単年度収支では43万円の収入超過の予算となった。

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

池 端 基 久 （父） 昭和43年 3 月卒
務 （子息） 平成13年 3 月卒

荻 堂 盛 久 （父） 昭和35年 3 月卒
盛 雄 （子息） 平成13年 3 月卒

澁 谷 淳 一 （父） 昭和41年 3 月卒
孝 道 （子息） 平成13年 3 月卒

水 野 則 文 （父） 昭和41年 3 月卒
正 弘 （子息） 平成13年 3 月卒

山 田 高 夫 （父） 昭和52年 3 月卒
大 祐 （子息） 平成13年 3 月卒

油圧の総合メーカー

YUKEN

油 研 工 業 株 式 會 社

代表取締役会長

結 城 重 一

（第1期卒業）

本 社 神 奈 川 県 藤 沢 市 宮 前 1 番 地

TEL (0466) 23-2111

営業本部 東 京 都 港 区 芝 大 門 1-4-8 清和ビル

TEL (03) 3432-2111

公認会計士、中小企業診断士
税理士、司法書士

宮川良雄事務所

所 長 宮 川 良 雄

（第1期卒業）

監査、税務、登記
企業診断、相続税

〒152-0003

東京都目黒区碑文谷2丁目7番17号

TEL 03-3716-7666

FAX 03-3793-3032

昭和54年 3 月卒業以前の同窓生の皆様は 賛助会費の納入をよろしくお願いいたします。／

同窓会の会費は、在学中に納入いただいておりますが、卒業後22年を経過し、40歳になられた会員には、上記賛助会費のご協力をお願いしております。

※ 納入にあたっては、同封の郵便局用「払込通知票」をご使用のうえ、お振込みください。

◆さようなら機械科、ありがとう関口先生◆



青 山 正 和 (昭和40年 3 月卒)

ピッピーピ！実習室にリズムカルな笛の音が鳴り響く、目黒高校機械科の新入生は皆ここから始まる。課題のポンチ作成を、ヤスリ一本で仕上げるのです。ピッピーピに合わせて、万力にセットした材料を削り込んでいく、手の平のマメが潰れても休まず削りつづけて新しい濃紺の実習服に汗が染み込み、鉄の酸化した臭いがすると、新入生たちは職人さんになったような気がしたものです。

私が在学していた昭和30年代は卒業と同時に 9 割方は就職していったように思います。わずか 3 年間ではあるが工業知識を得て、日本の高度成長の担い手として大いに活躍したにちがいありません。

母校の機械科がなくなったと聞き、少し寂しさと懐かしさが混在しています。これも時代の流れ、まして IT 時代を迎えた今、やむを得ない、いや当然なのかなあと思いました。

ところで、懐かしいと言えば私は英語の授業が大好きでした。当時、関口校長（故 理事長）が私たちの英語の先生でした。そのころ西側に古い校舎があり、教壇がえらく高く、小さな階

段が 2、3 段付いているほどでした。始業ベルが鳴り教室がシーンとしたところで入り口の引き戸が一気に開き、関口先生が軽くステップを踏みながら、時には歌を唄いながらその小さな階段を上り詰める。これからステージでショーが始まるような雰囲気です。授業は世界各国の話が中心で、特に美女談は楽しかった。世界への夢が広がり、もっと英語の勉強をしようという、そんな気持ちになったクラスメイトは幾人もいました。私もその一人で、おかげで現在でもアメリカ人やイギリス人の友人が多いです。関口先生の作り出す教室のムードはリラックスしていて心地良い授業だったと思うし、高校生活においても心地の良いものでした。おそらく関口先生の考えられた校風の一つではなかったのかと思いました。

丁度、この原稿を書き終えた時、関口先生の悲報を伺いました。驚きと衝撃で、しばらく返す言葉を失いました。若き日に、先生が私達に夢を与えてくれたことに感謝するとともに、心から先生のご冥福をお祈りいたします。

機械工具、鋏螺、工作機械、OAF A 機器

株式会社 マツ

代表取締役 松本 誠 治

本社／東京都品川区戸越 3-4-18
〒142-0041 TEL 3788-1111 (大代表)

バッチ●カップ●記念品

たから 多少にかかわらず一度御相談下さい。

寶 商 会 (株) 技寶堂分店

代 表 矢 島 陸 雄 (22 年 3 月卒業)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1丁目8番地9号
ニューシティーハイツ飯田橋504号
TEL (3239) 2 1 5 6

◆クラス会開催報告◆

石 渡 博 己 (昭和32年 3 月卒)



私達のクラスは、卒業して44年たちましたが、クラス会をこれまでに16回開催しています。卒業後 9 回目までは毎年続けていましたが、9 回目から10回目までは、16年間のブランクがありました。そして、10回目から11回目の開催までは、14年間のブランクとなりました。そのためかこの間、お互いクラスメイトどおしの親睦が薄くなってしまいました。卒業時に38名いたクラスメイトの消息が、今では一部わからなくなっています。

また 2 名の仲間が病亡しています。しかし、その後11回目から今回の16回目までは、毎年開催しています。

昭和35年には、仕事でブラジルに旅立つ山岡武君の送別会をクラス会をもって送り出しました。その後、彼が一時日本に帰国した時に、第12回目（平成 8 年）のクラス会を開催し、元気な顔を皆の前に見せてくれたのもつかの間、翌平成 9 年に再びブラジルに帰り、現在では所在不明となっています。ただただ彼の健康を祈るばかりです。

ここ数年は、毎年15名前後集っています。年々、私達も高齢化に向かいつつあり、身体に都合悪い人も出てきていますが、クラス会開催の呼びかけは、欠かさず行って疎通をはかっています。

第16回目のクラス会を平成12年10月28日(土) PM 5 : 30 ~ 9 : 30、中目黒の大判（やきとり居酒屋）に於いて、参加者14名で開催しました。再会を祝って乾杯し、懇談は尽きることなく進み、記念写真を撮り、来年の再会を約束して解散しました。

（筆者は写真前列の右から 2 人目）

★同窓会ホームページのアドレス★

<http://www.meguro.ac.jp/>

AYUSA : Academic Year in the United States of America

異文化体験は高校時代における挑戦であり、自分を再発見する機会でもあります。

AYUSA International はチャレンジ精神あふれる高校生の異文化体験を応援します。

AYUSA International とは

AYUSA International (アユサインターナショナル) は、世界各国の相互理解を目的として1980年に設立された非営利の教育法人です。管轄官庁である米国広報文化交渉庁との連携のもと、米国並びに各国間の教育交流を推進してきました。本部をカリフォルニア州サンフランシスコ市に置き、世界30カ国以上の国々からの留学生が1年間の交換留学を始めとする様々な国際交流プログラムに参加しています。

AYUSA 交換留学プログラム

AYUSA 交換留学プログラムは米国を始めとする各国のボランティア家庭に滞在し、現地の高校に1年間通学するプログラムです。このプログラムの目的は滞在地域における異文化体験と人物交流であり、各留学生は派遣先国より正規に認められた交換留学生として受入れられます。AYUSA 日本事務局と米国本部の連携により、出発前から帰国まで一貫した指導・サポート、カウンセリングを行います。

AYUSA 短期海外学習プログラム

春季・夏季の休暇を利用し、ホームステイをしながら異文化交流を体験する短期プログラムです。プログラム期間中は、平日の午前中に英会話のレッスンを受け、午後からは様々な見学活動を行います。週末はホストファミリーと過ごし、日本文化の紹介や滞在国内の文化を学ぶようになります。

AYUSA 留学生受入プログラム

日本に興味を持ち、日本での異文化体験を希望する海外からの交換留学生を受入れるホストファミリーになるのがこの留学生受入プログラムです。プログラム期間は短期から長期まで選ぶことができ、通常留学生は近隣の高校に通学します。受入に興味をお持ちの方はホストファミリーとして登録させていただきます。

上記プログラム以外にも大学生・成人向けの様々なプログラムを実施しています。ご希望の方には詳しい資料をお送り致しますので、下記まで資料をご請求下さい。

米国非営利教育法人 <アユサインターナショナル>



AYUSA International

日本事務局 (全国高校生留学・交流団体連絡協議会会員)

〒105-0022 東京都港区海岸1-9-11 マリンクスタワー 7F

TEL : 03-3434-2636 FAX : 03-3434-2617 E-mail : ayusa@pn.mars.dti.ne.jp

代表・事務局長 望月 正臣 (S.43 卒)

同窓会賛助会費 納入者のご芳名

平成12年度分の賛助会費として、本年3月末までに納入のあった方は、
下記の142名の方々です。ここに、謹んでご報告申し上げます。

●印は新規納入者

ア	相原伸次	エ	榎本誠四郎	黒沢章	蕭欣志	田村進	平井洋	宮下重雄
・青山妻靖彦	オ	大石和志	コ	桑原孝一郎	ス	丹治誠一	井嶋和元男	△村山栄助
・阿秋間徳太郎	大岡雄一	小岩国雄	コ	小古賀正勝	菅勝呂俊	土屋昌雄	平田和男	モ望月正臣
・浅浅倉祥吾	大矢進	小林一廣	・小	小嶋靖一	・鈴鈴木善亮	テ出水進	平畑龍正	ヤ矢川福太郎
・浅野勝生	大岡進	・小	・小	小林昇明	・鈴鈴木藤昭	ト東条論二郎	深野博男	・谷田部睦夫
・浅原貢司	岡前訓道	・小	・小	小室正義	関山博	戸沢正則	・藤井辰英	・八巻邦基
・天野博文	岡本誠之助	・小	・小	小近藤真貢	ソ外山昇	戸張新治郎	・藤倉利雅	山口邦治
・天谷祐造	・岡山憲	・小	・小	小近藤真貢	タ高橋初男	島良廣進	・藤平貞男	ユ結城重一
・安達富夫	カ柿ノ迫国夫	・小	・小	小近藤真貢	高橋弘哲	中村照夫	細野輝夫	ヨ・横山実
イ	飯田春雄	・加藤合章	サ	五月女進一	高橋哲隆	ニ西門照夫	洞本間徹也	ワ渡辺昭
・飯田基久	河川村悦年	坂井重男	坂井重男	坂井重男	・高野井内昌弘	ノ野崎幸生	前嶋喜治	
・石井昭介	川瀬年茂	佐久間重男	佐久間重男	佐久間重男	竹内田敬一	・萩森重光	松尾雄英	
・石原慎己	・木村義男	佐藤敏弘	佐藤敏弘	佐藤敏弘	武田中澄	・真鍋克之	・真鍋克之	
・磯田康憲	ク久我茂三郎	・柴田治男	シ	・柴田治男	・達野家一夫	ミ水谷清	・間野克之	
・猪瀬正誠	久保好男	・嶋清水茂	・嶋清水茂	・嶋清水茂	・達野家一夫	・水谷清	・間野克之	
・猪股正義	倉嶋英繁	下田将美	下田将美	下田将美	・達野家一夫	ヒ土方国任	・間野克之	
ウ	浦崎一徳				田辺一	平井孝昌	三宅啓一郎	計 142名

編集後記

今年の編集作業は、少しゆっくりできるかなと思っていましたら、突然の理事長先生のご逝去の報に接し大変驚きました。ここ数年、お体の具合が悪く、入退院を繰り返されていたと聞いていましたが、4月17日午前9時10分ご逝去されました。

私が入学した頃は理事長兼校長で、いつも外車を運転して登校されてきた元気な関口先生のお姿を思い出します。入学式や卒業式では、毎回、所々にユーモアを交えた大変おもしろいお話しをしていただきました。その中で今でもはっきり覚えている言葉があります。それは「水は低きにつき、人は高きにつけ」という言葉です。この言葉だけは、今でも強く私の頭の中に残っています。私は永遠に高い所に行けないかも知れないけれど、頑張れば何とか近づく事はできるのではないかと思います。この言葉は、一生忘れることはないでしょう。関口先生ありがとうございました。

(R Y U)

ご報告

今年度から同窓会の広報部員として鈴木正明君 (H. 3 卒) にご協力していただくことになりました。

★急募！ 同窓会活動にご協力いただける人材★

対 象 年齢不問、同窓会の活動に関心のある方。
パソコン、インターネットに興味のある方大歓迎。
連絡先 安達富夫 TEL 090-4063-6580

●クラス会・同期会の開催状況をお寄せください！

本紙では、紙面の一層の充実を図り、会員にクラス会、同期会の開催状況を広くお知らせするために、投稿をおまわちしています。

〔要 領〕

開催の模様（開催日時、場所、参加者数等）を、字数1,000字以内にまとめ、写真を添えて投稿者の氏名、住所、電話番号、卒業年を明記して下記にお送りください。

〔宛 先〕

〒153-8631

目黒区中目黒1-1-50

目黒学院高等学校同窓会事務局 まで